

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 10 月 24 日 (2019.10.24)

【公開番号】特開 2018-8171 (P2018-8171A)

【公開日】平成 30 年 1 月 18 日 (2018.1.18)

【年通号数】公開・登録公報 2018-002

【出願番号】特願 2017-205444 (P2017-205444)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 9 月 10 日 (2019.9.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動口への遊技球の入球に基づいて識別情報を変動表示する識別情報表示手段と、  
遊技球が入球可能な入球可能状態と、遊技球が入球不能な入球不能状態とに変化可能な  
可変入球口と、

前記識別情報が特定態様で停止表示したことに基づいて、前記可変入球口を入球可能状態とする特別遊技を実行する特別遊技実行手段と、

前記可変入球口への入球を検知する入球検知手段と、

前記入球検知手段で検知された遊技球の排出を検知する排出検知手段と、を備えた遊技機であって、

前記特別遊技は複数のラウンド遊技で構成されると共に、前記特別遊技として、前記複数のラウンド遊技における特定のラウンド遊技で、前記可変入球口を入球可能状態とする特別遊技を、少なくとも有しており、

前記特定のラウンド遊技における入球可能状態を終了した後に、前記可変入球口を入球不能状態として、前記特定のラウンド遊技に係る所定の確認処理を実行するものであり、

前記確認処理として、少なくとも、前記特定のラウンド遊技における前記可変入球口への入球数と排出数とが一致するかどうかを、前記入球検知手段及び前記排出検知手段の検知結果に基づいて判定する一致判定処理を有し、

前記可変入球口への入球数と排出数とが一致しない場合に、前記確認処理を実行可能な期間である実行期間の範囲内において、前記一致判定処理を複数回実行可能である

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記特定のラウンド遊技は、前記複数のラウンド遊技における最後のラウンド遊技であり、

前記最後のラウンド遊技における入球可能状態を終了した後に、前記可変入球口を入球不能状態として、所定期間の終了期間を設定し、前記終了期間が経過した後に、前記識別情報の変動表示を実行可能とするものであって、

前記確認処理の少なくとも一部を前記終了期間中に実行可能とすることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

## 【請求項 3】

前記終了期間が経過の際に、前記可変入球口への入球数と排出数とが一致しない場合には前記実行期間が終了すると共に前記確認処理が終了し、前記識別情報の変動表示を実行可能とすることを特徴とする請求項 2 に記載の遊技機。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上述の課題を解決するための第 1 発明の遊技機は、  
始動口への遊技球の入球に基づいて識別情報を変動表示する識別情報表示手段と、  
遊技球が入球可能な入球可能状態と、遊技球が入球不能な入球不能状態とに変化可能な可変入球口と、  
前記識別情報が特定態様で停止表示したことに基づいて、前記可変入球口を入球可能状態とする特別遊技を実行する特別遊技実行手段と、  
前記可変入球口への入球を検知する入球検知手段と、  
前記入球検知手段で検知された遊技球の排出を検知する排出検知手段と、を備えた遊技機であって、  
前記特別遊技は複数のラウンド遊技で構成されると共に、前記特別遊技として、前記複数のラウンド遊技における特定のラウンド遊技で、前記可変入球口を入球可能状態とする特別遊技を有しており、  
前記特定のラウンド遊技における入球可能状態を終了した後に、前記可変入球口を入球不能状態として、前記特定のラウンド遊技に係る所定の確認処理を実行するものであり、  
前記確認処理として、少なくとも、前記ラウンド遊技における前記可変入球口への入球数と排出数とが一致するかどうかを、前記入球検知手段及び前記排出検知手段の検知結果に基づいて判定する一致判定処理を有し、  
前記可変入球口への入球数と排出数とが一致しない場合に、前記確認処理を実行可能な期間である実行期間の範囲内において、前記一致判定処理を複数回実行可能であることを特徴とするものである。

## 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

また、第 2 発明の遊技機は、第 1 発明の遊技機において、  
前記特定のラウンド遊技は、前記複数のラウンド遊技における最後のラウンド遊技であり、  
前記最後のラウンド遊技における入球可能状態を終了した後に、前記可変入球口を入球不能状態として、所定期間の終了期間を設定し、前記終了期間が経過した後に、前記識別情報の変動表示を実行可能とするものであって、  
前記確認処理の少なくとも一部を前記終了期間中に実行可能とすることを特徴とするものである。

## 【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

また、第3発明の遊技機は、第2発明の遊技機において、

前記終了期間が経過の際に、前記可変入球口への入球数と排出数とが一致しない場合には前記実行期間が終了すると共に前記確認処理が終了し、前記識別情報の変動表示を実行可能とすることを特徴とするものである。

—  
【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】